



平成29年2月8日

各 位

会 社 名 株式会社デジタルメディアプロフェッショナル
代 表 者 名 代表取締役社長兼CEO 山本 達夫
(コード番号3652、東証マザーズ)
問 合 せ 先 常務取締役管理部長兼CFO 古川 聖
T E L 03-6454-0450

営業外収益（為替差益）、特別利益、特別損失の計上
および平成29年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成29年3月期第3四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）における営業外収益（為替差益）、特別利益、特別損失の計上および最近の業績動向を踏まえ平成28年5月11日に開示した平成29年3月期通期業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 営業外収益（為替差益）の内容

当社は、平成29年3月期第2四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年9月30日）において、為替差損11百万円を営業外損失に計上しておりましたが、その後の為替相場の変動により、当第3四半期会計期間（平成28年10月1日～平成28年12月31日）において、16百万円の為替差益が発生したことから、平成29年3月期第3四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）において、為替差益5百万円を営業外収益として計上いたしました。これは主に当社が保有する外貨建て預金の評価替えにより発生したものです。

2. 特別利益の内容

当社は、平成29年3月期第2四半期会計期間（平成28年7月1日～平成28年9月30日）において、前事業年度において株式を売却したカナダ・コグニビュー社の株式売却代金のうち一部留保されておりました9百万円を受領したため、特別利益が発生しましたが、その後当第3四半期会計期間（平成28年10月1日～平成28年12月31日）において株式売却代金の最終清算金3百万円を受領したことにより、平成29年3月期第3四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）において特別利益13百万円を計上いたしました。

3. 特別損失の内容

当社は、アミューズメント向け画像処理半導体「VF 2」に係る固定資産の採算性の再評価を実施し、減損処理を行ったことにより平成29年3月期第3四半期累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）において特別損失106百万円を計上いたしました。

4. 平成29年3月期通期業績予想値の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(1) 予想値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,000	△161	△161	△161	△59 26
今回修正予想 (B)	700	△270	△270	△360	△132 50
増減額 (B-A)	△300	△109	△109	△199	
増減率 (%)	△31.2	-	-	-	
(ご参考)前期実績(平成28年3月期)	733	△176	△193	△64	△23 89

(2) 修正の理由

売上高につきましては、LSI事業において前事業年度第4四半期より販売代理店へ出荷を開始したアミューズメント向け画像処理半導体「VF 2」の販売代理店から最終顧客への販売が近時の業界における規制動向の変化による需要減少や顧客の新機種選定の遅延による影響を受けるとともに、顧客の需要が「VF 2」の後継機として当社が開発中の次世代LSI「RS 1」へ移行している状況にあるため、期初の想定を大幅に下回る見込みとなりました。この影響により、当事業年度において受注を予定しておりました「VF 2」の受注が得られない状況となり、当事業年度において計画した販売数量に達しない見込みとなりました。また、IPコアライセンス事業におけるライセンス売上が近時のデジタルカメラ市場の縮小によりメーカーの新規投資抑制の影響を受け、翌期以降にずれ込む見込みのため、前回発表予想を修正いたします。

営業利益、経常利益につきましても、販売費および一般管理費の削減に努めましたが、売上高の減少が影響し、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

また、当期純利益につきましては、上記3特別損失の内容に記載のとおり、当第3四半期累計期間において回収可能性の低い固定資産を減損処理したことによる特別損失を計上したため、前回発表を下回る見込みとなりました。

(注) 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上